

# 「新しい疾患薬理学」追加情報：2021年承認新薬

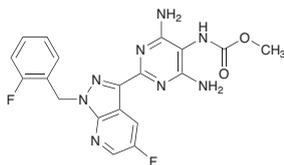
(株)南江堂 2022.3 (2022.4 一部改訂)

## 2章B 麻酔科領域の疾患に用いられる薬物

種類	薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
片頭痛治療薬			
カルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) 拮抗薬			
●ガルカネズマブ 【エムガルティ】(2021年4月) ●フレネズマブ 【アジョビ】(2021年8月)	遺伝子組換えヒト化抗CGRPモノクローナル抗体であり、CGRPに特異的に結合して、生理活性を阻害する	注射部位反応(紅斑、そう痒感、内出血、腫脹など)、注射部位疼痛、アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹など	
カルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) 受容体拮抗薬			
●エレヌマブ 【アイモビーグ】(2021年8月)	遺伝子組換えヒト化免疫グロブリンモノクローナル抗体であり、CGRP受容体に特異的に結合して、CGRP受容体を介した情報伝達機構を阻害する	便秘、傾眠、注射部位反応(紅斑、そう痒感、内出血、腫脹など)、注射部位疼痛、アナフィラキシー、血管浮腫、蕁麻疹など	

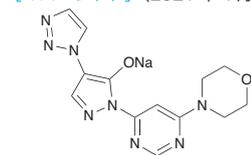
## 4章A 循環器内科領域の疾患に用いる薬物

種類	薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
心不全治療薬			
可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬			
●ベルイシグアト 【ベリキューボ】(2021年8月)	可溶性グアニル酸シクラーゼ(sGC)を直接刺激する作用、およびNOに対する感受性を高める作用によりsGCを活性化し、慢性心不全の病態進行を抑制する	低血圧	



## 4章B 血液・造血管内科領域の疾患に用いる薬物

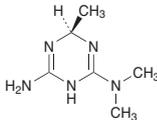
種類	薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
貧血治療薬			
腎性貧血治療薬			
●モリデュスタットナトリウム 【マスーレッド】(2021年4月)	プロリン水酸化酵素(PHD)を阻害することにより低酸素誘導因子(HIF)の分解を抑制、それにより、エリスロポエチンの産生を促進して低酸素時の赤血球の産生を促進	ショック、アナフィラキシー様症状、脳梗塞、心筋梗塞、血圧上昇	
血友病治療薬			
血液凝固第VIII因子製剤			
●シモクトコグ アルファ 【ヌーイック】(2021年8月)	血液凝固第VIII因子を補充し、出血傾向を改善する	アナフィラキシー様症状、発疹	



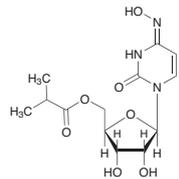
## 5章A 泌尿器内科領域の疾患に用いる治療薬

種類	薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
慢性腎臓病治療薬			
SGLT2阻害剤			
●ダバグリフロジンプロピレングリコール水和物【フォシーガ】(適応追加)(構造式※本書p.430)	糸球体内圧の低下や血行動態の改善により腎保護作用を示すと考えられる	脱水症状、頻尿・多尿、尿路感染症	

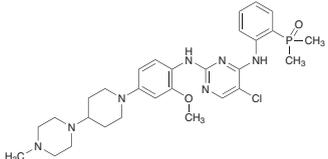
## 7章 A 糖尿病・代謝系内科領域の疾患に用いる薬物

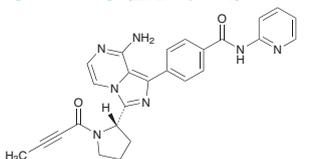
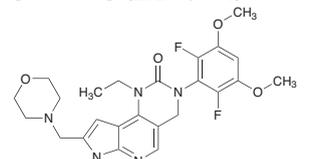
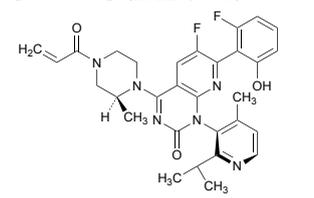
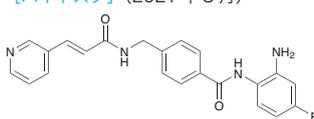
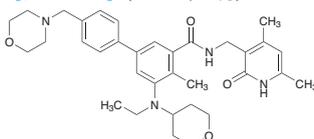
種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
<b>糖尿病治療薬</b>		
<b>ミトコンドリア機能改善薬</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● イメグリミン塩酸塩 【ツイミーク】(2021年8月)</li> </ul>  <p>イメグリミン</p>	<p>膵β細胞におけるグルコース濃度依存的なインスリン分泌促進作用と、肝臓・骨格筋での糖代謝改善作用(糖新生抑制・糖取り込み能改善)により血糖降下作用を示す</p>	<p>低血糖</p>

## 9章 A 感染症内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
<b>ウイルス感染症治療薬</b>		
<b>新型コロナウイルス感染症治療薬</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● モルヌピラビル 【ラゲブリオ】(2021年12月特例承認)</li> </ul> 	<p>RNA依存性RNAポリメラーゼを阻害する</p>	<p>催奇形性、胚・胎児致死</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● カシリピマブ/イムデピマブ 【ロナプリーブ】(2021年7月特例承認)</li> <li>● ソトロピマブ 【ゼビュディ】(2021年9月特例承認)</li> </ul>	<p>SARS-CoV-2ウイルスのスパイクタンパク質を認識し、宿主細胞への侵入を阻害する</p>	<p>過敏症</p>

## 9章 B 腫瘍内科領域の疾患に用いる薬物

種類 薬物 【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
<b>抗体(抗原標的薬)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ポラツズマブ ベドチン 【ボライビー】(2021年5月)</li> </ul>	<p>CD79bに結合したのち、細胞内に取り込まれ、モノメチルアウリスタチンEが細胞内に放出されることで抗腫瘍効果を示す</p>	<p>骨髄抑制、感染症、末梢性ニューロパチー、Infusion reaction、腫瘍崩壊症候群、肝機能障害、進行性多巣白質脳症など</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● エンホルツマブ ベドチン 【バドセブ】(2021年9月)</li> </ul>	<p>Nectin-4に結合したのち、細胞内に取り込まれ、モノメチルアウリスタチンEが細胞内に放出されることで抗腫瘍効果を示す</p>	<p>重度の皮膚障害、高血糖、末梢性ニューロパチー、骨髄抑制、感染症、腎機能障害、間質性肺炎など</p>
<b>抗体(受容体標的薬)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ジヌツキシマブ 【ユニツキシン】(2021年8月)</li> </ul>	<p>GD2と結合し、ADCCおよびCDCにより抗腫瘍効果を示す</p>	<p>Infusion reaction、疼痛、眼障害、低血圧、感染症、骨髄抑制、電解質異常など</p>
<b>小分子分子標的薬(チロシンキナーゼ阻害薬)</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● プリグチニブ 【アルンプリグ】(2021年5月)</li> </ul> 	<p>ALKを阻害する</p>	<p>間質性肺炎、肝障害、QT間隔延長、徐脈、血液障害、心不全、味覚異常、発疹など</p>

種類 薬物【代表的な商品名】(収載年月)	作用機序	注意すべき副作用
小分子分子標的薬 (チロシンキナーゼ阻害薬) つづき		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ラロトレクチニブ塩酸塩 【ヴァイトラックビ】(2021年8月)</li> </ul>  <p>ラロトレクチニブ</p>	TRK などのチロシンキナーゼ活性を阻害することにより腫瘍増殖を抑制する	心臓障害, QT 間隔延長, 認知障害, 運動失調, 間質性肺疾患, 肝機能障害, 骨髄抑制など
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アカルブルチニブ 【カルケンス】(2021年4月)</li> </ul> 	BTK のチロシンキナーゼ活性を阻害することで抗腫瘍効果を示す	出血, 感染症, 重度の皮膚障害, 骨髄抑制, 過敏症, 間質性肺疾患, 肝機能障害など
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ペミガチニブ 【ベマジール】(2021年5月)</li> </ul> 	FGFR チロシンキナーゼ活性を阻害することで, 抗腫瘍効果を示す	網膜剥離, 高リン血症, ドライアイ, 下痢, 口内炎, 口腔乾燥, 疲労, 味覚異常など
小分子分子標的薬 (RAS 阻害薬)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソトラシブ 【ルマケラス】(2022年1月)</li> </ul> 	G12C 変異を有する KRAS に結合することで, KRAS の活性化を阻害し, 抗腫瘍効果を示す	肝機能障害, 間質性肺炎など
その他の分子標的薬		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ツジジノスタット 【ハイヤスタ】(2021年8月)</li> </ul> 	HDAC の酵素活性を阻害する	重度の下痢, 脱水症状, 骨髄抑制, 出血, QT 間隔延長, 肝障害, 低血圧など
<ul style="list-style-type: none"> <li>● タゼメトスタット 【タズベリク】(2021年8月)</li> </ul> 	EZH2 を阻害することで, 腫瘍増殖を抑制する	腫瘍崩壊症候群, 骨髄抑制, 感染症など
細胞加工製品		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アキシカプタゲンシロルユーセル 【イエスカルタ】(2021年4月)</li> <li>● リソカプタゲンマルルユーセル 【ブレランジ】(2021年5月)</li> </ul>	CD19 CAR を遺伝子導入した CAR 発現生 T 細胞により, 抗腫瘍効果を示す	サイトカイン放出症候群, 神経系事象, 感染症, 低γグロブリン血症, 血球減少, Infusion reaction, 腫瘍崩壊症候群など